

Title	2019年度『学会賞』選考結果
Sub Title	
Author	岸田, 和明(Kishida, Kazuaki)
Publisher	三田図書館・情報学会
Publication year	2019
Jtitle	Library and information science No.82 (2019.) ,p.59- 59
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00003152-00000082-0059

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2019 年度『学会賞』選考結果

学会賞選考委員会委員長
岸 田 和 明

三田図書館・情報学会賞は、会誌である Library and Information Science に掲載された優れた論文に与えられる賞です。本年度は 80 号と 81 号に掲載された原著論文 4 編を対象に厳正な審査を行った結果、以下の論文を学会賞として選考しました。

橋詰秋子. RDA, NCR1987, NCR2018 における「著作」: 同一性の操作的定義の視点による比較分析. Library and Information Science. 2018, no. 80, p.1-23.

[授賞理由]

本論文は、1990 年代後半に策定された「書誌レコードの機能要件 (Functional Requirements for Bibliographic Records: FRBR)」における「著作」概念について、実際の目録記述の規則がどのように対応しているかを綿密に分析し、「著作」概念に基づく目録の機能向上に向けての課題を明らかにしたものである。この種の機能を実際の目録システム上に実現するには、同一著作に関する現状の目録レコードを「名寄せ」するか、もしくは、最初から「著作」概念に基づいてそれらを作成していく必要がある。いずれにせよ、その試みが成功するかどうかは、この論文が取り上げている「著作」の同一性の操作的定義が目録規則上でどのように規定されているかが重要な鍵となる。このため、本論文では、Resource Description and Access (RDA)、日本目録規則 1987 年版 (NCR1987)、同 2018 年版 (NCR2018) の 3 つの目録規則を取り上げ、(1)「著作」という用語の使用法、(2) 同一「著作」集合を規則に従い形成できるかどうかの可能性、(3) 2 つの「著作」間の境界がどのように線引きされるかについて分析し、それらの結果に基づいて、3 つの規則における「著作」概念に関する特徴を整理した。その分析は詳細かつ丹念であり、「著作」概念の高度な活用に向けての基礎的な知見を提供するものとして評価できる。ただし、その目標のためには、規則に基づいて実際に作成される目録レコードに対する分析や「名寄せ」のための技術の探究が不可欠であるが、残念ながらこれらはこの論文の範囲外である。しかしながら、この種の既存の研究を補完するものとして、あるいは、新たな技術開発の出発点になるものとして、本論文の成果は重要であり、学会賞にふさわしいと判断した。